

「御柱祭」を通じて地域の お客さまとの信頼関係を築く

**お客さまや建設工事会社との
信頼関係の積み重ねが
相互の満足度を高める**

大勢の男たちを乗せた太さ約1
m、長さ約17m、重さ約10トンのモミ
の巨木が、足がすくむほどの急斜
面を一気に滑り落ちる。土煙を上
げながら猛然と下る「木落し」こ
そ、「どうせ乗るなら木落しお乗
り、諏訪の男の度胸ためし」と唄わ
れる、「式年造営御柱大祭」、通称
「御柱祭」の最大の見せ場だ。数え
で7年ごとの寅と申の年に長野県の
諏訪大社を拠点に行われる。申年の
今年は、4月に御柱を山から里へ曳
き出す「山出し」、5月にその御柱
を神社までの道中を曳いて社殿に建
てる「里曳き」が、国内外から大勢
の見物客が集まる中、賑々しく執り
行われた。



「諏訪大社下社秋宮一之御柱」を地域の方と力を一つに曳行した。(右端が小池)

中部電力の諏訪営業所にも、氏子
としてこの大祭に参加する社員が数
名いる。その一人が配電建設課の小
池秀樹だ。1年前に行われたモミの
大木の「切り出し」から、「山出し」
「里引き」に至るまで、地域の一員
として祭りに加わった。

変厳しいですね。しかし、多くの人
の力を一つにして御柱を曳く様子
は、人を感動させ湧き上がらせる力
を持っていると思います」
普段の小池が担っているのは配電
設備の建設業務だ。担当地域内での
家屋・店舗の新築・増築などに伴う
電柱や電線などの配電設備の新設や
移設などを行っている。

現地で折衝する場面がありました。
付近は山林で、電柱、電線を新設す
るルートを検討し、最適だと思っ
たのが木の生い茂った場所でした。大
規模な伐採が必要になることを説明
し、協議した結果、日頃から信頼関
係がある建設工事会社の方が「お客
さまにとって、このルートがベスト
なら、うちが伐採してあげるよ」と
請け負ってくださったんです。こう
した日々の仕事の信頼関係の構築が
お客さまにとって、よりよい仕事に
つながると気がかされる、貴重な経
験でした」という。

「自然環境に恵まれた諏訪湖周辺
は、美しい景色を求めて別荘にみえ
るお客さまも多くいらつしやいま
す。そのため、配電設備がお客さま
の視界になるべく入らない場所に建
設や移設をするなど、お客さまの立
場に立った設計を心掛けています」
さらにこの仕事では、現場におけ
るお客さまや建設工事会社の方々と
の「信頼関係」も重要なポイントだ。
「あるとき電気の新規申し込みが
ありお客さま、建設工事会社の方と

「お客さまと直接折衝する機会が多
いのも私の仕事の特徴。初期対応
ひとつで会社のイメージもガラリと
変わってしまうので、常に基本に忠
実に、何が一番大事かを再認識しな
がら取り組むよう心掛けています」
電柱や電線の新設は、今後10年、



〔長野支店 諏訪営業所〕

諏訪湖を中心に管轄エリアは南北、東西
に広がる。エリア内人口は21万9000人
(2014年3月末現在)、架空配電線の総
延長1290km、配電線を支える電柱の
数約6万基、変圧器約2万9000個。エリア
のほとんどが盆地内のため夏暑く冬寒い
のが特徴。約100名の従業員が所属する。



小池秀樹(こいけひでき)
 中部電力長野支店諏訪営業所配電建設課
 建設グループ。1997年入社、長野営業所配
 電技術グループに配属。'99年豊科営業所
 配電課、2002年佐久営業所配電課を経て、
 '06年諏訪営業所配電建設課へ。'09年から
 3年間松本営業所木曾福島サービスステ
 ヂョンに赴任し、'12年に現職に戻る。諏訪大社
 下社御柱祭「東山田長持ち保存会」会員。

Voice of the spot



専用の計測棒で電柱、配電線の高さを測る。

新築現場の駐車場予
 定地に立つ電柱の支
 線移設についてお客さ
 まからの相談を受ける。

「私がやるべきことは、自分の仕
 事を全うすること。そうすることに
 より、常にお客さまから「信頼され
 る会社」を選ばれる会社」でありた
 いと思っています」
 被災地で、被害を被っているお客
 さまから「忙しいのに悪いねえ、あ
 りがとうね」など思わぬ言葉をかけ
 られたときは、嬉しさと申し訳なさ
 とともに、この仕事の地域とのつな
 がりの深さを実感するという。

20年と残っていくことを前提に、設
 備管理面、コスト、地形、今後の需
 要見込みなどを総合的に考え、お客
 さまや近隣住民の方々とにかくに納得
 していただけるかを第一に設計を行
 わなければならぬ。「だからこそ、
 電柱などの設備を、お客さまの要望
 に沿って設置できたときはこの上な
 い充実感がある」という。
**お客さまに選ばれる
 会社となるよう
 メンバー全員が心を一つに、
 自分の仕事を全うする**

「親父とラーメン屋で食事中に、
 突然店内が停電になったとき、店主
 が自分のクルマを動かしてヘッドラ
 イトで照らしてくれました。それ
 まで『電気はついて当たり前』と思
 っていたのが、実は当たり前前のこと
 ではなかった。電気の大切さや停電
 した時の影響の大きさを身をもって
 体験したことで電気に興味を持つよ
 うになり、結局高校も電気科を選び、
 その後の就職にいたしました」
 1997年に中部電力に入社。以
 来、配電畑を歩んできた。
 小池にとって忘れることのできな
 い出来事がある。諏訪営業所に転勤
 してきたばかりの2006年8月の



配電建設課では、縦と横のコミュニケーションを円滑に図るためのミーティングがひんぱんに開かれる。

ことだ。その少し前にエリア内の岡
 谷市湊地区で、死者7名を出した豪
 雨による土砂災害が発生した。
 「すぐに被災地に派遣されたので

すが、多くの家屋が流され土砂に埋
 まり、地形が大きく変わってしまった
 た光景を見て愕然(がくぜん)としました」
 ただちに現場復旧要員と共に現場

に入り、電柱・電線の復旧設計に取
 り組んだ。転動後しばらくはその仕
 事にかかりつきりだった。「1分1
 秒でも早い復旧」を、グループはも
 ちろん営業所のメンバー全員が目指
 し、心を一つにして作業に当たった。



小池は今年5月半ばに行われた諏訪大社下社御柱祭・里曳きの「長持ち行列」に初めて参加した。(前列左が小池)



御柱祭を通じて築いた人間関係は小池にとって何ものにも代えがたい。(前列右が小池)

「御柱祭」から学んだ
教訓を業務に活かして
お客さまにプラスαの対応を

「御柱祭」に参加したことも、地域に溶け込む大きなきっかけになった。小池は長野県青木村の出身で、もともと諏訪に縁はなかった。

「諏訪に転勤して入居した社宅がたまたま下諏訪町で、諏訪大社下社の春宮も目と鼻の先。当然のように御柱祭に興味を持つようになりまし

た。新参者にもかかわらず地域の方々が温かく迎え入れてくださり、

「諏訪に転勤して入居した社宅がたまたま下諏訪町で、諏訪大社下社の春宮も目と鼻の先。当然のように御柱祭に興味を持つようになりまし

た。新参者にもかかわらず地域の方々が温かく迎え入れてくださり、

「地域を少しでも盛り上げたい」「仕事以外にも何か貢献できることはないか」という気持ちが高まりました」

その後、09年から3年間は家族を残して松本営業所の木曽福島サービスステーションに単身赴任。12年に諏訪に戻ったのを機に、下諏訪町にマイホームを購入した。地元の東山田地区は図らずも、「長持ち」で唯一

諏訪大社の境内に入ることが許されるなど、諏訪地域で最も由緒がある」とされる「東山田長持ち保存会」のお膝元だった。

「しかもお隣が保存会のメンバー

す」

「御柱祭」は危険が伴うということとはよく知られているが、それだけに、自分だけでなく仲間の安全も守るため、周囲の状況に注意しながら声を掛け合うなど、安全への取り組みは徹底している。少しでも危険に近づきそうなる行動があればすぐに先輩から「飛ばす」。

「それは私の普段の仕事にもそのまま当てはまります。段取りや取り扱いを間違えると、すぐにお客さまにご迷惑をおかけしてしまいます。『安全は会社の資産』と位置づけ、御柱祭のように一人ひとりが安全への意識を高め、熱い気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思っています」

「同じ目標に向かって厳しい練習を乗り越えたからこそ、一体感が生まれ、地域にはすぐに溶け込むことができました。指導していただいたのは過去に長持ちを担いでいたベテラン指導者や保存会会員。そのほかにも保存会の仲間には、事務職、学校関係、行政など、普段の仕事では出会えないさまざまな方がいて、自分が持つていない知識や技術を学ぶことができる貴重な場でもありま

電力自由化の時代となり、お客さまや社会の期待に添えていくためには、今までやってきたことを同じようにやってもだめだと小池はいう。「常にプラスアルファの対応で、私も御柱祭のようにお客さまに感動を与えられるような仕事をしたい」そうした言葉が出るのも、「御柱祭」に真剣に取り組み、真の感動を味わったからかもしれない。